



# 伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

## 恵みの沼の再生目指して 佐倉市民の心のふるさと印旛沼



2月県議会予算委員会で、県の取り組みを聞く伊藤昌弘県議

若さと情熱、行動力で、活発な政治活動を続ける伊藤昌弘(伊藤・まさひろ)県議は、佐倉市選出後、2月県議会の予算委員会で質問に立ち、環境問題と農業問題で県の方針を質しました。

特に、佐倉市のシンボルである印旛沼の再生に時間を割き、水質浄化や外来生物の駆除についてその方策を質問しました。伊藤県議の質問と県担当者の答弁を特集します。

### 佐倉市特集 2月県議会予算委員会

伊藤県議 今日、印旛沼は、都市化や経済社会活動

などの影響に伴い、湧水の枯渇、自然の浄化機能の低下などが相まって、水質汚濁が進行して環境基準を大幅に上回り、水道水源である湖沼の水質としては、全国ワースト2となっている。そこで、この状況をどうにかする、この状況を知事はどういった感想を持っているのか。

知事 印旛沼は、古来から水清く、自然豊かな千葉

県の風景として、また、近年では、飲料水、農業・工業用水の水源として利用されるなど、千葉県にとって、貴重な財産です。しかし、印旛沼の水質は、昭和三十年代からの急激な都市化により悪化し、近年では上水道水源で利用している湖沼の中で、残念

### ファーストフラッシュ

ながらワースト上位に位置しています。そこで、地域と行政が一体となって、かつての「恵みの沼・印旛沼」を再生し、次の世代へと継承する必要がありますと考えています。

伊藤県議 沼の自然系水質汚濁のなかで大きな原因の一つと言われているのが、道路、歩道などに溜まった汚れが初期降雨時に雨水と一緒に流れ、河川から沼に入り汚れてしまうファーストフラッシュ汚濁。この対策に

### 初期降雨時の汚濁調整池改良で防止

環境生活部長 ここ数年、市町村及び県・国の助成により設置された浄化槽は、平成二十二年以降は、改修した調整池のモニタリング調査を継続実施し、専門家の意見を参考に、より効果的な対策を検討し、調整池の改良を進めていく予定で、平成二十二年度は、約三百万円を予算計上しています。

### 質疑者

2月県議会予算委員会で、県の取り組みを聞く伊藤昌弘県議

ついでに最近の取り組み状況はどうか、また、今年度予定の事業と予算額はどうか。

河川環境課長 ファーストフラッシュ対策として、平成二十一年度に三百四十一万円の事業費で、降雨初期に市街地から流出するゴミや汚れを捕捉するための調整池の改良を、佐倉市内の三方所で、試験的に実施しました。

伊藤県議 次に、生活系排水による汚濁の防止に大きな効果を持つと言われていたのが合併処理浄化槽。さらに、汚濁の原因である窒素やリンの除去により有効な、高度処理型合併処理浄化槽の設置推進。

そこで、ここ数年の合併処理浄化槽の設置、高度処理型合併処理浄化槽の設置状況(高度処理型の比率)、今年度の設置予測と今後の設置推進策はどうか。

環境生活部長 ここ数年、市町村及び県・国の助成により設置された浄化槽は、平成二十二年以降は、改修した調整池のモニタリング調査を継続実施し、専門家の意見を参考に、より効果的な対策を検討し、調整池の改良を進めていく予定で、平成二十二年度は、約三百万円を予算計上しています。

毎年三百基程度で推移しています。

このうち高度処理型浄化槽の比率は、平成十八年度以降、五五パーセント、六六パーセント、八四パーセントと年々増加し、二十一年度は、ほぼ一〇〇パーセントの見込みです。

平成二十二年年度の設置基数は、概ね二十一年度と同程度を見込んでおり、今後とも、流域市町村と連携し、窒素やリンの除去に、より有効な高度処理型浄化槽の普及に積極的に取り組んでまいります。

### 再質問

伊藤県議 高度処理型浄化槽の設置比率が上昇し、ほぼ一〇〇パーセントとなった成果の要因は、どのように考えているか。

環境生活部長 限られた予算の中で設置補助を行なっていますが、印旛沼流域の市町村、住民、NPO等の地域団体が連携し、熱心に取り組んできた成果と考えています。

伊藤県議 まだ、未設置のところがあるので、今後も取り組みを進めてもらいたい。

### 伊藤まさひろ・PROFILE

#### 略歴

- 昭和30年 佐倉市に生まれる
- 昭和53年 日本大学法学部卒業
- 平成7年 佐倉市議会議員に当選(2期を務める)
- 平成19年 千葉県議会議員に当選

#### 現職

- 千葉県議会 総務常任委員会委員
- 自由民主党佐倉市支部 幹事長
- 佐倉市表町防犯防災協会 会長
- 日大習志野高校同窓会 会長

●まちづくりに関する悩みごと、気軽にご相談下さい!!

## 伊藤まさひろ 県議事務所

〒285-0811 佐倉市表町3-6-28  
TEL.043-485-8019  
FAX.043-486-1616

# 米生産調整の所得補償

## 県が独自上乗せ助成

### 飼料用米など生産農家に

**伊藤県議** 千葉県の生産調整は、これまで湿田が多いため、麦や大豆による転作が進まず、平成二十年度の主食用米の過剰作付率は全国ワースト県となっていることから、平成二十一年度産米の生産目標は、全国が昨年同様八百五十万トンであるのに対し、本県は二百六万二千三十三トンと昨年に比べ九百八十トン少ない割り当てと厳しい状況だった。それを踏まえて、平成二十二年度はどうか。

**生産販売課長** 平成二十二年産米の全国の生産数量目標は、平成二十一年産に比べ二万トン減少し、八百十三万トンとなりました。都道府県別には、需要実績に応じた配分を基本に、激変緩和措置が講じられた結果、本県の平成二十二年産米の生産数量目標は、平成二十一年産より百二十トン多い二十六万二千五百五十トンの配分がありました。国では、平成二十二年産から、生産数量目標に従う販売農家に対し、戸別所得補償制度のモデル対策を実施しますが、県では、特に飼料用米等を生産する農家に対し、独自に上乗せ助成を行うなど、支援してまいります。

**また、制度の推進に当たっては、具体的な収入試算を提示するなど、農家が制度の内容を十分理解できるように、市町村等主催の説明会を通して、周知徹底を図っているところです。**

### 米粉使った料理普及へ

**伊藤県議** 国の減反から食糧自給力向上への政策転換を踏まえ、取り組みやす



佐倉市の小学校で、食育の授業をする伊藤昌弘県議

**い飼料用米の推進と、米粉の推進について、県の取り組みはどうか。**

**生産販売課長** 飼料用米については、県内の畜産農家から今後安定した需要

が見込まれるため、円滑な取引のコーディネート役として、地域の米農家や畜産農家、飼料会社などで構成する「飼料用米利用者協議会」の県下全域での設置を促し、生産と利用の拡大を推進してまいります。

**再質問** 伊藤県議 現在の米粉製粉機の整備状況はどうなっているのか。

**生産販売課長** 現在の米粉製粉機の設置状況は、袖ヶ浦市を始めとして、県内の五市町村で六機でございます。

二十一年度は、二カ所において導入が図られたところでです。

## ちばエコ農業

**伊藤県議** 農業は本来、生命系の循環型産業です。このことを基本にすれば、農業は自然環境に負荷を与えず、化学農薬や化学肥料の他投入で地力が低下した農地をいやし、持続可能な方向に回帰しなければなりません。

**現在消費者は、かつてないほど安全で安心な農産物を求めており、農薬と化学肥料の使用を通常の半分以下に減らして栽培することも、農薬や肥料の使用実績を公開することにより、生産者と消費者の相互の顔が見える農業の実現を目指す「ちばエコ農業」は今後のニーズからしても益々重要で**

## 面積 毎年600haずつ増加

**安全農業推進課長** 「ちばエコ農業」は、平成十四年度の制度創設以来、毎年約六百ヘクタール増加し、平成二十一年十一月現在で、栽培延べ面積四千五百三十六ヘクタール、延べ農家数六千三百四十八戸となり、環境にやさしい「ちばエコ農業」への取り組みが拡大しております。

**また、県民の「ちばエコ農産物」の認知度が約四割まで伸びております。課題といたしましては、「主要品目の年間を通じた安定生産」「生産の努力とコストに見合う販売価格の確保」「消費者や流通関係者のちばエコ農業への理解の向上」などがあると考えております。**

## 湖沼に優しいエコ農業

**伊藤県議** 環境にやさしい農業の推進(ちばエコ農業)は印旛沼の水質浄化にも大変有効と考える。そこで、この流域では積極的に推進すべきと思うがどうか。

**安全農業推進課長** 環境にやさしい「ちばエコ農業」の推進は、農地や河川・湖沼への環境負荷を軽減し、本県農業を健全な形で次の世代へ引き継ぐために重要



不法投棄撲滅に取り組む伊藤昌弘県議

**今後、「ちばエコ農業」を印旛沼流域をはじめ、県全域でさらに拡大するため、「生産安定のための栽培技術の開発・普及」「販売を促進するためのちばエコ農産物フェアなどの開催」費者等へ、生産者の努力や想いを伝えるピーアール活動などを積極的に推進してまいります。**

# ふるさと佐倉のために 伊藤まさひろ 県議

佐倉市特集 2月県議会予算委員会